

認定こども園

令和元年9月1日

# 敬愛短大附属幼稚園だより 9月号

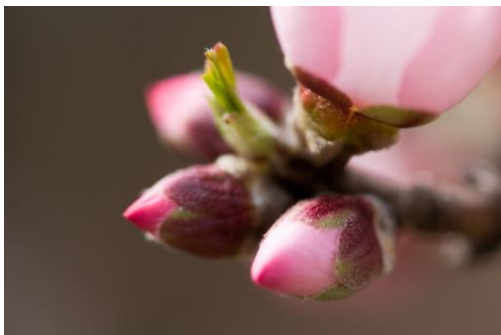
夏休みは、ご家族で普段はなかなかできない体験をお子様たちとされたことと思います。

冒頭から私事で恐縮ですが、我が家の子どもたちの幼少期は、国立科学博物館や県教育委員会等の勤務時期で、学校現場から離れた時期でした。学校現場におりますとなかなかお休みも取れないのが普通でしたが、丁度先ほどの勤務場所にいたために現場よりは多少時間がとりやすくなって子どもたちとたくさん遊ぶことができました。また、遊ぶことだけでなく、夫婦共に子どもたちと様々な会話をたくさんすることができました。夫婦で考えていたことは、子ども時代に楽しさの原点を作ってあげたいという共通の考え方を持っていました。また、この年代にしかできない体験はできるだけさせておきたいとも考えていました。

幼児期のこうした様々な体験の多くは、成人して覚えていることは表面上少ないかもしれませんが、身体の中の見えない部分（本人にとっても意識していない部分）にしっかりと刻まれているものです。こうした経験は社会人になった際にどこかで再びふとしたことで思い出されることがあります。見えない部分を子どもの中に形成する時期、それが幼少期でもあります。大人になってみれば見える部分が多くなりますが、それも幼少期に刻まれたことの現れのひとつです。

こうしたことから、目先のことでなく、じっくり時間をかけて子どもたちの将来に向けて体の中に見えない多くの経験を蓄積させてあげられることが親となった喜びでもあります。経験=結果ではなく、やがてくる未来に子どもたちがきっと役立ててくれることでしょう。

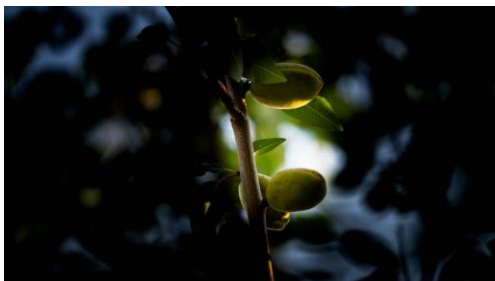
## 1 子ども時代に身に付けたいことのひとつ



(アーモンドの蕾) 4月

読書する習慣を身に付けさせることは中学生では遅すぎます。絵を見て文字を読み、そこに出てくる様々な登場人物に思いを巡らせ、想像することがその後の脳の発達にとっても大きく関わってきます。この時期にそうした脳を成長させておかないと後では時期を失います。物事には発達や成長に適切な時期があり、そのタイミングを失うと、身に付くこともできなくなります。それぞれ様々な事情はありますが、特に幼児期はタイミングが重要な時期であることを認識しておきたいところです。豊かな感情を育てる時期、それが幼児期です。

## 2 人は一人では生きられない



(アーモンドの実) 7月

人と関わることは社会生活を営む上でとくに重要です。私を含めて職業生活から離れて高齢になると人との関わりが希薄になります。

幼児期は初めての社会を認識し始める時期で、友だちやきょうだいのなかかわりの中でケンカもするでしょうし、わがままと思える言動もするでしょう。しかし、これらのことは健全な社会生活をして行くうえでとても大事なことです。自分一人の世界では何をするのも他を意識せずに行うことができますが、そこに自分以外の人との関わりができると何をしても良いということが通用しなくなることを理解し始め、自分の言動がどう変わると人と仲良くできるかということ学ぶようになります。

そのことで、初めて自分というものを客観視することの必要性を無意識のうちに学習します。このようなことから、子どもにとって一番最初の社会は家庭です。ですから家庭での関りはとても子どもの心の発達にとって重要なこととなります。特別なことをする必要はありません。愛情を注ぐことを忘れなければ大丈夫です。

(園長 杉山清志)